

ＪＩＣＡ２０１７年度課題別研修「地域開発計画管理」コースを受け入れました

平成２９年１０月１０日から１１月２４日にかけて、アフガニスタン、アルバニア、ブータン、モンゴル、ミャンマー、ネパール、セネガル、シエラレオネ、スーダン、ラオスの１０カ国から１３名の行政官をＪＩＣＡ２０１７年度課題別研修「地域開発計画管理」コース（受託機関：公益財団法人 はまなす財団）の研修員として受け入れました。

本研修は、北海道総合開発の手法を参考として、参加者が自国の地域開発の計画管理・運営等の技術を習得することを目的としており、北海道開発局は、北海道総合開発の体制や当局が実施する事業、自治体等が進める地域開発事例に関する講義や、インフラ整備・産業開発事例等の現地視察を組み合わせた研修プログラムを提案し、研修員が多くの成果を得られるよう、協力しました。

【北海道開発局表敬訪問】



１０月１２日、来日間もない研修員が表敬訪問のため北海道開発局を訪れました。西山次長から歓迎の挨拶を申し上げ、各研修員からは本研修への抱負が語られました。この訪問のために民族衣装を着用した研修員もいました。

【講義の様子】



講義は、北海道開発局職員その他、政府関係機関、地方自治体、大学等から講師を招いて実施しました。どの講義においても研修員からは多くの質問があり、北海道開発への関心が高い様子が見られました。

【ディスカッション】



研修テーマ毎にディスカッションを開催しました。コースリーダーである東海大学国際文化学部長の平木隆之教授にご出席いただき、講義や視察についての内容理解を更に深め、自国への適用可能性を検討するための議論をリードしていただきました。

【視察】



有珠山災害遺構視察



道産小麦を使用したピザづくり体験

視察旅行として、胆振地方、十勝地方を訪問し、各地の地域資源活用事例を学習しました。洞爺湖有珠山ジオパークでの訪問は自然災害と共生しながら、火山の恵みを活かす取組を学びました。十勝地方では北海道の強みである農業を中心に講義、視察を組み込み、農産品の高付加価値化やフードバレーとかちの取組等について学びました。



北九州市エコハウス見学



響灘ビオトープ視察

研修終盤には東京の国土交通省北海道局を表敬訪問し、北九州市へと移動しました。同市では、戦後の公害問題解決のために行われた取組や、現在実施している環境政策等、環境に配慮した持続可能な地域開発について学びました。

【スタディレポート発表会】

本研修では、「北海道総合開発政策」や「住民参加と地方自治」など、研修で学んだ重要なテーマについて、それぞれの研修員が理解した内容をまとめ、帰国後の研修員の活動を含めて自国への適用可能性を検討する「スタディレポート」を作成します。

11月22日には、本研修の総まとめとして、作成したスタディレポートを、研修員はもちろん、コースリーダー、当局関係職員、JICA 担当者の前でプレゼンテーションしてもらうスタディレポート発表会を開催しました。

やや緊張した様子を見せる研修員もいましたが、全員無事発表を終え、それぞれの鋭い分析を交えた発表内容に、本研修の成果が表れていました。



シエラレオネの研修員によるスタディレポートの発表

【閉講式】

2ヶ月近く続いた研修は11月24日に終了し、閉講式が行われました。北海道開発局からは開発監理部次長が閉講式に出席し、挨拶いたしました。各研修員には JICA 北海道から修了証書が授与され、研修員代表のスピーチでは研修関係者への感謝の意と今後の業務に本研修を活かす意気込みが語られました。



修了証書授与



研修員スピーチ



本研修の成果が研修員の母国の発展に寄与するとともに、研修期間中に築かれた日本や各参加国との友情が今後も続いていくことが期待されます。